

長崎県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標 ※2020 年度達成値は県独自の調査によるもの

①求められる英語力を有する教師の割合

【中学校】 2020 年度達成値：32.4% (目標値：50%) 2021 年度目標値：50%

現状と課題：目標値に大きく届かない状況が続いている。県内英語教員に対して根気強く意識改善を働きかけることに加え、目標到達に向けた取組の更なる充実を図る必要がある。本県では、2016 年度から TOEIC IP テストの受験料を県が負担し、中学校英語教員に受験を促す取組を展開しており、これまでに延べ 292 名の教員が受験した。しかし、TOEIC の基準が 2019 年度から見直されたこと等もあって、引き上げられた目標点に到達できた教員は少ない。

手立て：2021 年度は TOEIC IP テスト (オンライン) の受験料に係る予算を、これまでの 50 名分から 100 名分に増額する。また、教職 6 年目～10 年目の教師については悉皆受験にするとともに、それ以外の教員については、未受験及び目標点に達していない者への受験の働きかけを行う。さらに、国のオンライン研修事業を受託し、研修機会を確保することにより、教員の英語力の向上を図る。

CEFR B2 レベル (英検準 1 級) 取得者

	中学英語 教員数	CEFR B2 人数	CEFR B2 割合	県費での TOEIC 受験	
				受験者	CEFR B2 到達者
2016	386 名	112 名	29.0%	96 名	16 名
2017	387 名	115 名	29.7%	54 名	13 名
2018	387 名	128 名	33.1%	50 名	18 名
2019	394 名	135 名	34.3%	47 名	6 名
2020	383 名	124 名	32.4%	45 名	6 名

【高等学校】

(CEFR B2 レベル以上を取得している教師)

2019 年度達成値：77.7% (目標値：78%) 2020 年度目標値：80%

2020 年度達成値：81.1% (目標値：80%) 2021 年度目標値：82%

2020 年度は昨年度から 3.4 ポイント上昇し目標を達成することができた。2020 年度は、2016 年度から 2019 年度まで実施していた「教員の英語力向上研修会 I・II」における TOEIC IP テストの受験と受験に向けての事前研修を行うことができなかったが、2020 年度の達成値が上昇したのは、新学習指導要領の実施を控え、英語力向上の必要性を意識している教員が多いことが要因の一つとして考えられる。2021 年度は、教員の英語力を活かして授業における教員の英語使用率も高まるように、研修会や説明会等の内容を工夫する。

②求められる英語力を有する生徒の割合

【中学校】 2020 年度達成値：42.0% (目標値：60%) 2021 年度目標値：60%

現状と課題：目標値との開きはあるが、2019 年度と比して、0.4 ポイントの増加となった。これは、2019 年度に実施された全国学力・学習状況調査の出題内容から、各学校が、求められる生徒の英語力について実感を持って受け止め、それぞれに分析・考察を行い、授業改善に着手し始めたことの表れであると捉える。この動きを確かなものとし、加速化する必要がある。

手立て：生徒の英語力向上に直結する中学校英語教師の指導力向上を主眼に置いた新規事業「グートウェイ・Nagasaki 英語教育推進事業」を展開する。本事業においては、県内の全英語教員によるガイダンス Web 会議や、県内 12 地区でのスキルアップ研修等に取り組む。また、同事業における県学力調査、イングリッシュ・フォーラム、イングリッシュ・パフォーマンスコンテストにより、学習の成果を発揮する場を設けることで、生徒の英語力を高める。

【高等学校】

(CEFR A2 レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒)

2019年度達成値：45.3% (目標値：50%) 2020年度目標値 50%

2020年度達成値：47.3% (目標値：50%) 2021年度目標値 50%

目標の50%には到達しなかったが、昨年度から2.0ポイント上昇した。2018年度と2019年度に実施した「英語で発信できるグローバルパイオニア育成事業」で、多くの生徒が1・2年時に外部検定試験を経験し、各校でその結果を分析することで、その後の指導や学習の改善につなげることができた。

2016年度から実施している県独自のスピーキングテスト「高校生英会話力テスト」を2020年度にリニューアルし、次年度は改訂版を活用しながら、生徒の聞く力・話す力を客観的に把握し、発信力を強化する。また、これまで実施した英語教育推進リーダーによる「指導力向上研修」の研修内容を生かし、4技能をバランスよく高める授業の充実を図り、生徒の英語力を向上させる。

③学習到達目標の整備状況

【中学校】 2020年度達成値

(設定)：94.7% (目標値：100%) 2021年度目標値：100%

(公表)：14.6% (目標値：30%) 2021年度目標値：30%

(把握)：45.0% (目標値：60%) 2021年度目標値：60%

現状と課題：いずれの項目についても、前年度より達成値が下がった。主な要因に、年度初め、コロナ禍の影響を受け、各校のCAN-DOリスト作成が十分でなかったことがあると考える。また、CAN-DOリストに対して、作成自体が目的化している傾向があり、活用に関する質的な高まりを促す必要がある。

手立て：県内12地区でのスキルアップ研修会において、CAN-DOリストの意義や活用により得られる効果等を、あらためて、丁寧に伝えることにより、英語教員の意識改善を図る。

【高等学校】

2019年度達成値

(設定)：100% (目標値：100%) 2020年度目標値：100%

(公表)：32.5% (目標値：30%) 2020年度目標値：40%

(把握)：61.0% (目標値：55%) 2020年度目標値：65%

2020年度達成値

(設定)：100% (目標値：100%) 2021年度目標値：100%

(公表)：42.1% (目標値：40%) 2021年度目標値：50%

(把握)：64.5% (目標値：65%) 2021年度目標値：65%

毎年全ての県立高校に「CAN-DOリスト」の作成・提出を求めている。「公表」と「把握」についてはどちらも目標を達成し、特に「公表」は9.6ポイントと大きく上昇した。今後は継続的に研修会や学校訪問等を通じて、ホームページ等での公表とリストを活用した評価の改善等に向けた取組を進めていくと同時に、新学習指導要領の実施を見据え、リストの改善と中学校との効果的な接続について進めていく。

④授業における生徒の英語による言語活動時間の割合

【中学校】 2020年度達成値：74.6% (目標値：90%) 2021年度目標値：90%

現状と課題：授業の半分以上で英語による言語活動を行っている割合は、2019年度から0.9ポイント減少したが、これは、外国語科における「言語活動」についての正しい理解が進み、「言語活動の場面」と「練習の場面」とを区別して捉える教師が増えたことで、自己評価が厳しくなった結果であると考えられる。今後は、「言語活動」の質・量の向上を促す必要がある。

手立て：言語活動が充実した授業のイメージを教員が明確に持ち、よりよい学習指導の展開に

資するため、県内の中学校における優れた授業実践例の動画配信等を行う。また、県内12地区でのスキルアップ研修においても、受講者に互いの授業動画を紹介し合わせることで、授業改善の機会とする。

【高等学校】

2019年度達成値：55.3%（目標値：55%） 2020年度目標値 60%

2020年度達成値：53.4%（目標値：60%） 2021年度目標値 60%

言語活動の充実を意識した生徒主体の授業づくりに対する意識が高まっており、昨年度は英語による言語活動時間の割合が増加していたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ペアワークやグループワーク等を活用した言語活動を控えた学校も多く、達成値は下がった。

今後は、ICT機器やタブレット端末の活用も含め、効果的な指導の在り方や先進的な取組等を生かした授業の普及に努め、生徒の言語活動を中心とした授業づくりを推進する。

⑤パフォーマンステストの実施状況

【中学校】

スピーキング 2020年度達成値：3.9回（目標値4.0回）2021年度目標値：4.5回

ライティング 2020年度達成値：2.2回（目標値2.5回）2021年度目標値：3.0回

現状と課題：スピーキング、ライティングともに達成値は横ばい状況である。一方、地域や学校によって取組に差が見られる。

手立て：英語教育推進協議会やスキルアップ研修会において、パフォーマンステストの実施により指導と評価の一体化を図ることが、授業改善や生徒の学習方法の改善につながることを伝達するとともに、学力UP通信等を活用して発信する。

【高等学校】

○スピーキングテスト

	2019		2020		2021
	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値
コ英Ⅰ	1.7回	1.76回	2.0回	1.46回	2.0回
コ英Ⅱ	1.7回	2.13回	2.2回	1.81回	2.2回
コ英Ⅲ	1.3回	1.53回	1.8回	1.48回	1.8回
英表Ⅰ	1.5回	0.88回	1.5回	0.66回	1.5回
英表Ⅱ	1.2回	1.09回	1.2回	1.45回	1.8回

○ライティングテスト

	2019		2020		2021
	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値
コ英Ⅰ	1.0回	0.85回	1.0回	0.85回	1.0回
コ英Ⅱ	1.0回	0.96回	1.0回	0.97回	1.0回
コ英Ⅲ	1.0回	0.73回	1.0回	1.36回	1.5回
英表Ⅰ	2.0回	2.36回	2.0回	1.83回	2.0回
英表Ⅱ	2.7回	3.34回	3.0回	2.24回	3.0回

新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で、スピーキングテストを自粛した学校が多かったため、目標値を上回ることができなかった。次年度は「高校生英会話力テスト」の改訂版を活用しながら、スピーキングテストの実施回数を増やしていきたい。また、すべての科目において複数技能のパフォーマンステストが実施されるよう、言語活動やパフォーマンステストについて研修会等で引き続き取り上げていく。

⑥授業における英語使用が50%以上である教師の割合

【中学校】2020年度達成値：76.9%（目標値：100%） 2021年度目標値 100%
現状と課題：教師の英語使用状況は、地域や学校によって差が大きい。また、授業の75%以上で英語を使用している割合に関しては依然として2割に達していない。研究発表会等で参観した授業においても、日本語の説明が多い授業が散見される。

手立て：スキルアップ研修等において、優れた実践例を積極的に取り上げることにより、意識の啓発を図る。また、市町教育委員会とともに実施する学校訪問における指導助言においては、必ず、英語使用の割合について触れることとする。

【高等学校】

2019年度達成値：48.6%（目標値：60%） 2020年度目標値 60%
2020年度達成値：48.1%（目標値：60%） 2021年度目標値 60%

これまで年々達成値が上昇し、英語で進める授業が広がりつつあったが、2019年度、2020年度は減少し、目標値も大きく下回っている。学校訪問時や各研修会において英語で進める授業のモデルを示したり、県英語教育研究会が発行するニュースレターを活用して情報発信を行ったりするなどして、教師が英語を使用する意義や効果的な指導方法等について、今後も周知徹底を図っていく。

⑦新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合 2021年度目標値：10%

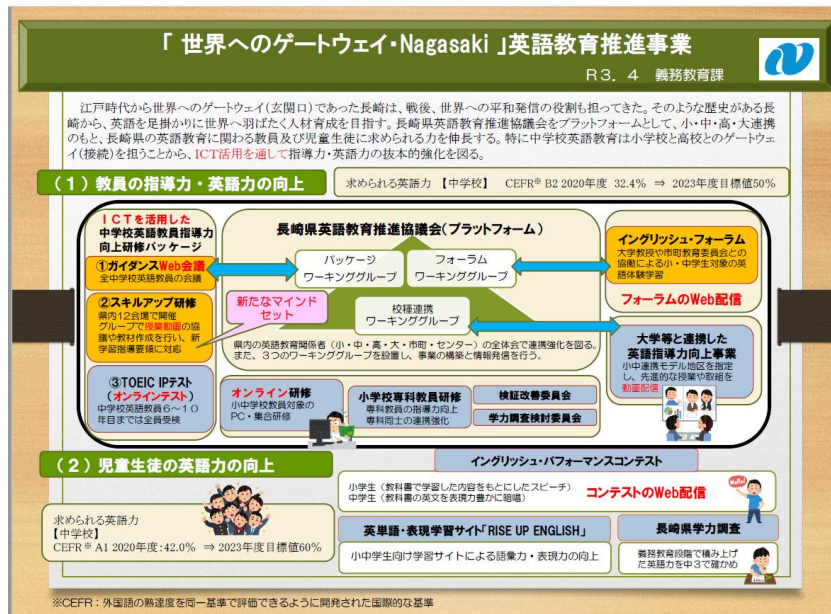
本県の小学校教員採用試験においては、英語の外部試験資格を所持している受験者及び中学校教員免許を所持している受験者に加点制度を設けている。次年度以降も継続し、外国語科の指導で活躍できる人材の採用に努める。

(2) (1)の目標を達成するための取組（施策の全体像と具体的な計画）

【小・中学校】

本県の課題：英語教育実施状況調査の小中連携の項目において「連携している」と回答した中学校は7割に届いておらず、その改善が急務である。また、中学校において、授業における生徒の英語による言語活動時間の割合、授業における英語使用状況が50%以上の教員の割合は、ともに8割に届いていない。新学習指導要領の全面实施に当たり、英語で授業を行うことができるための英語力の向上及び小学校の学びを発展的に生かす中学校の授業改善が喫緊の課題である。

課題改善のための手立て：「世界へのゲートウェイ・Nagasaki」英語教育推進事業を展開し、中学校英語教員の英語力及び指導力の向上、児童生徒の英語力向上の両面の伸長を図ることとする。



具体的な手立ては以下の①～⑧に記載する。

【教員の指導力・英語力の向上】

①長崎県英語教育推進協議会（全市町での情報共有、県全域への成果の普及）

参加者：大学教授5名（県内4大学）、全21市町教育委員会指導主事、附属学校長
研修協力校校長、教育センター、高校教育課、義務教育課等 約50名

<第1回>：5月18日

国の動向や県の事業説明、各市町の取組紹介、大学教授の講話等に加え、学力調査及び英語教育実施状況調査の結果を基にした課題の共有や情報交換、協議等の内容で構成する。

<第2回>：2月15日

研修協力校及び研究指定校の成果報告、県内の先進的な取組の紹介、県の事業報告等を行うとともに、大学教授から専門的な知見での指導を受け、次年度の取組の方向性を確認する。

②ICTを活用した中学校英語教員指導力向上研修パッケージ

（中学校英語教員の英語力・指導力向上）

i) ガイダンス Web 会議：4月20日

全中学校英語教員に向け、動画配信サイトを用いて新学習指導要領の趣旨や1年間の研修の流れや内容を伝達する。

ii) スキルアップ研修

全中学校英語教員を対象とした研修を県内12地区で実施する。参加教員が自身の授業動画を持ち寄り、グループで協議させる。また、新しい評価の在り方を踏まえたテスト問題の作成にも取り組ませる。

（県南） 8月 6日、10月13日（会場：長崎市）

9月28日（会場：時津町）

（県央） 8月18日（会場：川棚町）

9月17日（会場：島原市）

9月22日（会場：大村市）

（県北） 8月25日（会場：平戸市）

11月16日、11月17日（会場：佐世保市）

（離島）10月19日（会場：壱岐市）

10月27日（会場：対馬市）

11月10日（会場：五島市）

iii) TOEIC IP テスト（オンラインテスト）

教職6年目～10年目の教師については悉皆受験にするとともに、それ以外の教員については未受験及び目標点に達していない者への受験を促し、計100名の教員に対して受験機会を設ける。

③大学等と連携した英語指導力向上事業（外部機関との連携、県全域への成果の普及）

中学校区における小中連携及び英語力の向上に向けた研究を行う研究協力校（市町）を指定し、大学教員と連携しながら指導を行う。研究指定地区、小中合同の研修会を複数回行う。最終の授業研究会は県内に広く公開し、成果の普及を図る。

④小学校英語専科教員研修（専科教員の指導力の向上・授業の質の向上）

<開催期日及び会場> 6月23日 長崎県庁

専科教員に対するサポートと専科教員同士の連携を深めることを目的として実施する。中学校及び高等学校の指導経験をもつ専科教員も多いため、小学校外国語教育についての理解を深

めること、子供の発達段階に適した指導の在り方を理解することも併せてねらいとする。研修内容は、学習指導要領に対応した教科書を用いた指導及び評価方法等に関する講義・演習を行う。また、専科教員がもつ課題やこれまでの成果を共有する場を設定する。

⑤オンライン研修（小中学校教員の英語力・指導力向上）

本県は多くの離島を有するため、離島勤務の教員が、英語力向上のために研修を受講する機会を確保することが難しい状況にある。さらに、コロナ禍により、県内全体としても集合研修を受講する機会が減少している。国が提供するオンライン研修を受講することで、個々の英語力・指導力の向上を図る。

【児童生徒の英語力の向上】

⑥「県学力調査」及び「検証改善委員会」からの発信（生徒の英語力向上）

学力向上対策の取組として、検証改善委員会を立ち上げ、その中で、県学力調査（第3学年で実施）の結果を分析し、県全体で取り組む重点課題を設定している。さらに、重点課題についての改善策を、授業公開により具体的に提案する。

- 県学力調査実施（5月）
- 県学力調査の結果分析及び重点課題の設定（6月～8月）
- 検証改善委員会による改善の具体的な手立てを含む授業づくり（9月～11月）
- 課題改善のための公開検証授業（11月）

⑦イングリッシュ・パフォーマンスコンテスト（児童生徒の英語表現力向上）

本県では2014年度から5年間継続して「長崎県中学生英語暗唱大会」を実施し、2019年度からは小学生の発表を新たに加え、内容を拡充するとともに標記の名称に改めて実施している。21市町からの代表児童生徒が各市町の予選会や審査を経て参加し、年々発表のレベルが高くなっている。児童生徒の発表は、参観した多くの小中学校教員にとって指導改善の参考となっており、特に小学校については、反響が大きかった。2021年度は、コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、発表の様子を動画配信する予定である。

⑧英単語・表現学習教材「RISE UP ENGLISH」の活用促進（児童生徒の英語語彙力向上）

2014年度から中学生向けの英語教材として公開している学習サイトは、2020年度中に1,811人がユーザー登録し、総計34,378人に達した。本学習サイトを活用し実施している「スペリングコンテスト」は2020年度からは市町や学校による取組へと移行した。学習サイトについては、小学校や県外にも情報提供することでさらに活用を広げる。

【高等学校】

本県の英語教育の現状を踏まえ、新学習指導要領の実施に向けて、英語教育推進リーダーや外部専門機関等と連携しながら、英語教育の改善に資する研修や取組を計画し実施する。

①ICT活用研修会

研修対象者：高等学校の英語科担当教員等

受講予定者数：50人程度×3回

目的・内容等：

- 1人1台のタブレット端末を効果的に活用した授業づくりについての理解と実践を図る。
- 外部専門機関や先進校から講師を招き、タブレット端末及びEdtechサービスを活用した指導法、活用例等に関する研修の機会を提供する。
- 全3回で異なるEdtechサービスを用いた実践例を取り上げ、各校での取組を促進する。

②指導力向上プロジェクト

研修対象者：高等学校の英語科担当教員

受講予定者数：5～6名

目的・内容等：

○英語教育推進リーダー等による授業参観や指導助言等を通して、次の推進リーダーを担う人材の発掘と育成を図る。

○全体研修及び受講者の所属校での公開授業・授業研究を実施する。

③小・中・高連携強化のための研修会

研修対象者：小学校、中学校、高等学校英語担当教員等

目的・内容等：

○小・中学校の研修協力校（西海市）と近隣高等学校による連携協議会や公開授業、情報交換等を通して、各校種における英語教育について理解を深め、地域での継続的な連携体制を構築する。

(3) (2) を実施する体制の概要

